

※画像は設計時の3Dデータです。



満を期して登場 蒸機の「貴婦人」

PRECISION RAILROAD MODELS
KATO

今月の
**イチオシ
鉄道模型**
2017年
9月

C57という形式は言わずと知れた有名な蒸気機関車だ。かつては四国を除く全国で幅広く活躍し、現在も線路の上を走る雄姿を見ることが出来る。

今回製品化するC57蒸気機関車はその優美な姿から「貴婦人」の愛称を受けた1次形だ。準幹線用旅客牽引機として、昭和12年(1937)から製造が開始され、太平洋戦争を挟んで総数201両が量産された。国鉄パンフィック機(2C1の軸配置)としては最もポピュラーな機関車だ。細くすっと伸びた近代的なボイラーと、煙室や砂箱周りのなだらかな曲線を描く車体、ボックス動輪にスポーク車輪で構成される重厚でメカニカルな足回りも程よくまとまっている。その優美な姿は今もなお多くの鉄道ファンを魅了し続けている。

この機関車が牽引するのは、長大編成の急行列車から一般形客車を連ねた鈍行列車、また貨物列車としての活躍も時には見られた。模型で楽しむ際には、同時期に活躍していた客車、貨車、機関車と様々な組み合わせができる。綺麗に揃った客車で構成される優等列車の魅力は言わずもがな、形式や車体形状が異なる不揃いの鈍行列車の編成を再現するのも乙なものだ。

播但線では普通列車ながらC57を3重連で運転した例もあり、そういった特徴的な編成を自分で探して、模型で蘇らせてみるのも一つの楽しみ方だ。

合わせてKATOではC57の音もサウンドカードで楽しめる。最新の技術で再現されたC57を、是非目と耳で楽しんでもらいたい。

※画像は設計時の3Dデータです。



特徴的な
細いボイラー
となだらかな
曲線を描く
砂箱



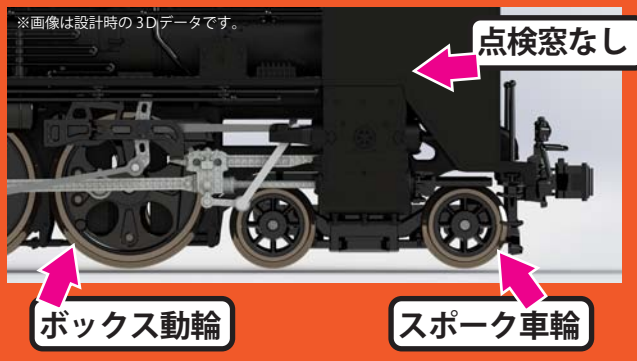
※画像は設計時の3Dデータです。

2018年1月発売予定
C57 1次形
2024 ¥13,000+税



※画像は設計時の3Dデータです。

標識灯は助手席側のみに
装備



※画像は設計時の3Dデータです。

点検窓なし

ボックス動輪

スポーク車輪

助手席側

※画像は設計時の3Dデータです。



C57の運転に
リアルな「音」を追求



好評発売中!
サウンドカード
Sound Card
<C57・C59>
22-202-8 ¥2,500+税

C57 編成例

旅客から貨物まで、様々な編成でお楽しみいただけます。

播但線 3重連普通列車	C57	C57	C57	オハニ36	スハ32	オハフ33	オハ35	オハ35	スハフ32	
播但線 貨物列車	C57	ヨ5000	トラ90000	トラ90000	トラ45000	ワラ1	トキ25000	ワム90000	ワム90000	ワフ29500
臨時急行「はしだてピーチ」号	C57	オハネフ12	オハネ12	オハネ12	オハネ12	オハネ12	オハネ12	オハネ12	オハネフ12	
臨時急行「但馬銀嶺」号 臨時急行「但馬ピーチ」号	C57	スハフ12	オハ12	オハ12	オハ12	スハフ12	オハ12	オハ12	オハフ13	

陰陽を結ぶ優等列車

バリエーション豊かな
荷物車を連結
夜行急行「だいせん」

大阪から福知山線を経て大社を目指す夜行急行「だいせん」は、昭和47年(1972)に複数の優等列車を統合する形で誕生した。

今回製品化する編成は当時見られた10系客車で構成される夜行急行だが、特徴的なのは多種多様な荷物車を連結して運用していたことだ。

大阪を出て大社を目指す下り列車は先頭側からスユニ60、ワサフ8000、マニ35と来てその後ろに10系客車が10両連なる。スユニ60は出雲市に到着後切り離され、残りの12両が普通列車として大社線に入り、終点大社駅を目指す。大社線内はC11が牽引機を担うこともあった。

大阪から出雲大社への参拝を目的とする観光客は、列車を乗り換えることなく大社駅まで行くことができる列車だった。上り列車は出雲市始発で、編成後ろ側にマニ35とワサフ8000が連結される。この列車は米子駅でワサフ8000の後ろにマニ61を増結して大阪を目指す。

この客車列車ならではの運用を、是非模型で楽しんでいただきたい。牽引機として、DD54を同時発売予定だ。

12月発売予定

10系夜行急行
「だいせん」

10-1449 7両基本セット
子価 ¥14,600+税
10-1450 7両増結セット
子価 ¥14,600+税



屋根上ベンチレータは8個

※画像は設計時の3Dデータです。

スハニ32改造車。ライト基板組込可。



スユニ60 ※画像は設計時の3Dデータです。

細体化された扉

後期形を製品化。



マニ61 ※画像は設計時の3Dデータです。

※画像は設計時の3Dデータです。

ストーブ用煙突

ストーブ煙突付の200番台。TR23台車を装備

前面手すり増設



初期形 スノーブロー装備



初期形 延長された煙管



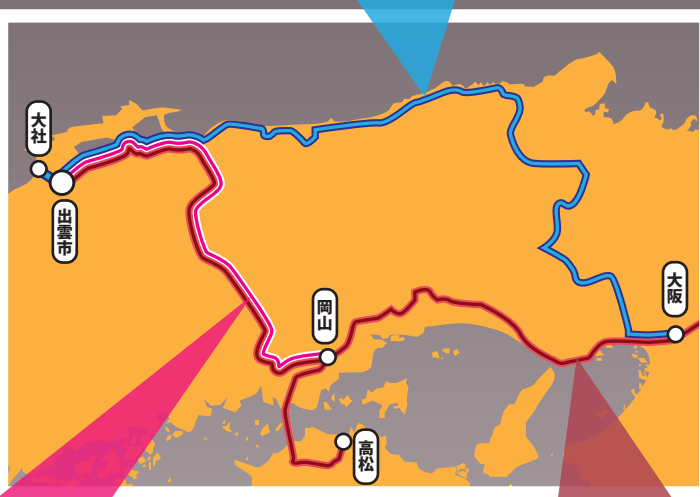
中期形 SGルーバー無



DD54 初期形 7010-4 子価 ¥7,000+税



DD54 中期形 7010-2 子価 ¥7,000+税



陰陽連絡の今

新幹線の無い山陰地方へ向かう際に、人々の脚となるのは在来線の優等列車だ。山陽地方ほどの列車の往来は無いが欠かせない存在であり、日夜多種多様な列車が行き交う姿が見られる。他では見られなくなった国鉄形特急電車の381系や、定期運行の寝台特急である「サンライズエクスプレス」が活躍している。かつては全国で見られた在来線の賑わいが、ここにはまだ残っている。



写真撮影：川崎大輔

381系「ゆったりやくも」 2018年1月発売予定
10-1451 6両セット 子価 ¥18,200+税

平成18年(2006)～平成22年(2010)にかけて車内外のリニューアルが行われ現在の姿に。特徴的なパノラマグリーン車のクロ380、他車と屋根上や窓割りが異なるモハ380200が連結された編成を製品化。実車同様にカーブに入ると車体がカーブ内側へと傾斜する、KATO独自の車体振り子機構を搭載。土休日に見られる6両編成、閑散期の4両編成などお好みの編成で楽しめる。



285系0番台 「サンライズエクスプレス」 好評発売中
10-1332 7両セット ¥19,300+税

「サンライズ出雲」「サンライズ瀬戸」として活躍する寝台特急電車。「サンライズ出雲」は岡山～出雲市間は「ゆったりやくも」と同区間を走るため、模型での共演を楽しめる。